

FTSE4Good 気候変動選定基準

1. はじめに

気候の変動は地球環境、社会、そして企業の経済価値に重大な影響を与えることが予測される。その結果、投資家、政府、そして一般社会は企業が気候変動に対する的確な認識と責任を持つことに期待している。それ故、関連した企業のビジネス・チャンスも増加すると考えられる。

社会における気候変動問題の重要性を反映し、FTSE 4 Good 指数シリーズの選定基準として気候変動が新たに加えられた。

FTSE 4 Good 指数シリーズの選定基準は通常、既に構築された国際基準を元に作成される。しかし、温室効果ガス（グリーンハウスガス、以下 GHG）削減方法に関する統一された基準は現段階では構築されていない。よって、既存の基準を考慮に入れながら、FTSE グループは以下の団体より貴重な意見を取り入れている：The Climate Group; The Institutional Investors Group on Climate Change (IIGCC); The Carbon Trust; Forum for the Future そして World Wildlife Fund (WWF)。その上、18ヶ月間に及ぶ企業、ファンドマネージャー、政府関係者、非営利団体、企業連合会や個人投資家など、多くのステークホルダー・専門家との幅広いコンサルテーションを実施している。

現在の選定基準は、大気中の GHG 濃度を持続可能な水準に維持する為に必要とされる排出削減量を設定していない。この基準は、現状の規制やビジネス環境の下で気候変動課題に取り組む代表的な企業にとって実施可能な取り組みを反映している。気候変動に関する政策、国際基準や企業活動が進展すると共に、長期の持続可能な環境作りに向けたより厳しい基準へと改定される予定である（「今後の基準」項目を参照）。

気候変動選定基準の要点と課題

方針： この基準は、企業の気候変動への取り組みを確立するだけでなく、気候変動に関する科学的見解および合意を支持し、気候に関するリスクやGHG排出削減の公的な政策の枠組み強化に協力することを目指している。

マネジメント： この基準では、目標を定めることが効果的なマネジメント方法の一つであると認識し、GHG濃度に大きく影響を及ぼす見込みのある高インパクト企業にはこのようなターゲットを課している。また、中インパクト企業に対しては、基準導入段階においてはマネジメント手法より情報開示の項目を重視する。

情報開示： この基準では、信頼性が高く、一貫性があり、比較可能なGHG排出に関する情報開示が不可欠であることを認識している。これは、GHG排出管理に効果的であると同時に、ステークホルダーがそれらを評価する際に重要である。明確かつ一本化されたGHG排出計算方法の利用は重要だが、国際基準となる手法が定まっていない現状を反映し、基準の導入段階では計算方法に柔軟性を許容する。

パフォーマンス： FTSE は GHG 排出レベルの絶対値が企業の気候変動に対するパフォーマンスの主な評価方法であると認識している(企業構造の変化は随時考慮される)。この絶対値は徐々に減少するものと見込まれる。しかし、現段階では排出削減の客観的評価及び比較を行うことが困難である。FTSE では、企業パフォーマンスの正確な評価方法の進展と共に、パフォーマンス基準を開発し、中インパクト企業への選定基準も導入する予定である。

範囲： 企業にとって管理が容易な活動とそうでないものがある。企業の管理力が最も及びやすい活動に関しては、企業は気候変動への影響を削減する最大の責任がある。そのため、この基準は企業活動及び製品が排出する GHG に適用される。川上活動（取引相手の活動や原材料の抽出や生産）での排出は現段階では含まれていない。これは、企業内における管理が困難だけでなく、現段階ではこれらの GHG 排出量を効果的に評価する共通の枠組みが存在しないことによる。

選定基準を満たす必要のある企業とは？

全ての企業は、度合いは違えど GHG 排出に関与している。しかし、現時点での FTSE4Good 選定基準では最も排出度の高い産業サブセクター（ICB 分類¹を利用）に分類され、早急に取り組む必要のある企業を優先する。よって、サブセクターは企業活動による GHG 排出度に合わせて中・高の活動インパクトに分類される。

中活動インパクト・サブセクターの中には、他のサブセクターに比べて気候への影響が大きいと確認されたものもあり、後に高活動インパクト・セクターへと再分類される可能性がある。又、中・高活動インパクトのサブセクターにおいても特にインパクトの高い製品を扱う企業は、更に追加的な基準を満たすことが求められている。

¹ ICB : FTSE/Dow Jones の産業分類ベンチマーク <http://www.icbenchmark.com/>

FTSE4Good 気候変動選定基準

2. 中・高活動インパクト・サブセクター

以下の表は企業活動のGHG排出における中・高活動インパクト・サブセクターを示している。製品による高インパクトが見受けられるサブセクターは、追加的な製品インパクト基準を満たす必要がある。（以下 † で表記）

	インパクト区分	
	高活動インパクト	中活動インパクト
追加的高インパクト製品	<ul style="list-style-type: none"> • (石油・ガス) の探鉱・生産 † • 総合石油・ガス生産 † • 石炭 † 	<ul style="list-style-type: none"> • 航空宇宙 † • 自動車 †
サブセクター (ICB より)	<ul style="list-style-type: none"> • ダイヤモンド・宝石 • その他の鉱業 • 金 • プラチナ・貴金属 • 汎用科学製品 • アルミニウム • 非鉄金属 • 鉄鋼 • 建築材料・機材 • 航空会社 • 電気 • 配送サービス 	<ul style="list-style-type: none"> • 特定化学製品* • 紙* • 重量建築物* • 防衛 • 商用車・トラック • トラック輸送 • 廃棄物処理サービス • タイヤ • 醸造業* • ウイスキー・ワイン醸造* • 清涼飲料* • 農業・漁業* • 食料品* • 住宅建築 • 医薬品 • 旅行・観光 • 複合公益事業 • 水道 <p>* 表記のサブセクターは後日、高インパクト項目へ再分類される可能性がある。</p>

ビジネス関連活動： 場合によっては、上記のサブセクターに分類されていない企業でも、多様な企業活動に取り組んでおり、気候変動への中・高インパクトのある活動が認められる場合がある。よって、新たに上記サブセクターと関連した中・高インパクト活動または高インパクト製品を扱っていると認められた企業は、EIRIS によって同様に調査される。

FTSE4Good 気候変動選定基準

3. 企業選定基準

	高活動インパクト	中活動インパクト	追加的高製品インパクト ⁺
方針・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 取締役委員会や上部経営者層での気候変動関連の責任表明（個人又は委員会） 一般公開された声明/方針：気候変動を企業活動の一環として取り組む課題と認識したものの* 	<ul style="list-style-type: none"> 取締役委員会や上部経営者層での気候変動関連の責任表明（個人又は委員会） 一般公開された声明/方針：気候変動を企業活動の一環として取り組む課題と認識したものの* 	<ul style="list-style-type: none"> 責任：得になし。 一般公開された声明/方針：製品に関連した GHG 排出やその他気候変動への影響を軽減する取り組みの表明
マネジメント・戦略	<p>下記のいずれか一つを満たす必要がある： （パフォーマンス基準を満たしていない場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期の戦略・目標：一般に公開され、今後5年以上に渡る企業活動関連の GHG 排出、又は CO₂ 密度の顕著な削減目標量を明記したものの 短期・中期のマネジメント目標：5年以内の企業活動関連の GHG 排出量の削減目標量を明記したものの 	<p>現時点での基準は無い： 中インパクト企業の選定基準は、現時点ではマネジメントよりも情報公開を重視している。</p>	<p>現時点での基準は無い： 製品が排出する GHG 削減の目標策定は、現時点では非現実的と見なされ、方針基準で別途取り上げられている。</p>
情報公開	<p>下記の両方の情報公開：</p> <ul style="list-style-type: none"> トン単位の CO₂ として計算された企業活動から生じる総 CO₂ 又は GHG 排出量 産業基準が作られている場合はセクター測定基準を表記。例：セメント会社では、1トン当たりの CO₂ 排出量や効率性 	<p>下記のいずれか一つの情報公開：</p> <ul style="list-style-type: none"> トン単位の CO₂ 相当、またはエネルギー消費量として計算された企業活動から生じる総 CO₂ 又は GHG 排出量 産業基準が作られている場合はセクター測定基準を表記。例：セメント会社では、1トン当たりの CO₂ 排出量や効率性 	<p>製品の GHG 排出効率性に関する情報公開： これはセクターによって異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油・ガス：エンドユーザーの排出量 鉱山鉱業：エンドユーザーの排出量 自動車：燃料効率 航空宇宙会社：燃料効率
パフォーマンス	<p>下記のいずれか一つの基準達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去2年間で最低5%の CO₂ 密度の削減 過去2年間の間、認められた計算方法を用い、CO₂ 排出効率性が同サブセクター内の企業群にて上位25%に位置していることを証明 計量可能かつ顕著な効果が見られる、変革的なイニシアティブ²、又は複数のイニシアティブ 	<p>現時点での基準は無い： パフォーマンス評価プロセスが進展するに連れて、中インパクト会社へのパフォーマンス基準も導入される。</p>	<p>自動車・航空宇宙会社は下記のいずれか一つを満たさなければならない：</p> <ul style="list-style-type: none"> GHG 排出削減：サブセクターの平均以上の燃料効率性の改善 エコ効率の数的指標：サブセクターの平均以上の燃料効率性 製品の排出量を削減する変革的なイニシアティブ² <p>注：石油・ガス・鉱業：現時点では「製品」の追加的な基準は無いが、企業活動インパクト項目のパフォーマンス基準を満たす必要がある。</p>

* これらの選定基準では、企業が効果的で適切な規制の策定過程において重要な役割を担っていることを認識し、公的な政策プロセスに貢献することを推進している。しかし、企業が意図的かつ継続的に（IPCC レポートで表記された）気候変動に関する科学的根拠に反するような証拠、又は（GHG 削減義務を含めた）GHG 排出削減に向けた公的な政策の枠組みに反する活動が認められた場合、FTSE4Good 選定基準の評価に考慮される。

4. 実施時間軸

現時点で FTSE4Good 指数の組み入れ企業である中・高インパクト企業は、以下の期限を目処に選定基準を満たさなければならない。新たに組み入れられる企業は、関係する全ての基準を満たさなければならない。				
	2008年1月1日	2008年7月1日	2009年1月1日	2009年7月1日
方針・ガバナンス、又は情報開示		中		
方針・ガバナンスと情報開示	高		中	
マネジメント・戦略、又はパフォーマンス		高		
パフォーマンス			高	
製品				高

2 「変革的なイニシアティブ」とはGHG排出削減に顕著な貢献が認められる戦略的なイニシアティブを指す。FTSEは気候変動の専門家に相談の下、「顕著な貢献」レベルを認知的に産業セクターのデータを評価する。例：低炭素電気や燃料転換；需要者側管理；低炭素技術の研究、開発や生産；再利用可能なエネルギー生産；製品/サービスのイノベーション；炭素捕捉・炭素保存；サプライチェーン/川上企業の排出削減；新ビジネス・モデルの提案；画期的なプロジェクト、など。

FTSE4Good 気候変動選定基準

今後の選定基準 (FTSE4Good 委員会によって決定される)

GHG 排出を地球環境にとって持続可能なレベルに維持するためには、より厳しい選定基準を作成する必要がある。しかし、現時点では多くの企業が上記の選定基準の達成に向けた取り組みが大きな課題となることが裏づけられている。

よって、上記の選定基準は、気候変動に取り組む第一段階として見なされる。FTSE4Good 方針委員会はこの基準の導入と共に企業の進歩を監視し、将来的にはベスト・プラクティスの基準を導入することを目指している：

方針・ガバナンス

- **方針背景**：方針内容は以下の内容を考慮する：国内/国際目標；規制；気候変動に対する現時点での科学的合意；気候変動による経済的影響
- **公共政策リーダーシップ**：許容範囲の大気中 CO₂ 密度達成に向けた適切な時間軸に則った GHG 排出削減を行う必要を考慮し、国内外の法規制を含めた公共政策への積極的な支援

マネジメント・戦略

- **目的・目標**：全ての企業が長期の GHG 排出削減目標を作成

情報開示

- **比較/範囲**：GHG データ計算方法及びデータ収集範囲に関する明確な説明
- GHG データの **検証/保証**
- **川上企業インパクト (取引先)**：川上企業の情報公開基準は今後構築される

パフォーマンス

- **高活動インパクト企業のパフォーマンス基準の強化**
- **中活動インパクト企業のパフォーマンス基準の導入**
- **石油・ガス・鉱業の更なるパフォーマンス基準の導入**

産業セクター (FTSE4Good 委員会によって決定される)

FTSE4Good 委員会は選定基準の第一段階の導入後、更なるサブセクターに対する基準の導入を想定している。次のサブセクターは 2006 年夏に開かれた公のマーケット・コンサルテーションによってその候補として挙げられた：

- **コンピューター・ハードウェアと消費者向け電子機器**は製品が生じる GHG 排出量は顕著であると確認された。この 2 種はその他の製品サブセクターに比べてインパクトは低いと思われるため、適切な選定基準を開発し、この 2 種に導入する予定である。
- **住宅建設・重量建設のサブセクター**は、中活動インパクトに加えて製品においても高インパクトと確認されている。
- **既に** (上記サブセクター分類表で*印の表記) **確認された全ての中活動インパクトセクター**は高活動インパクトへの再分類を検討する。

更に詳しい情報を希望の方は www.ftse.com をご参照の上、info@ftse.com 及び各地域の FTSE 事務所にご連絡下さい。

FOR FURTHER INFORMATION VISIT WWW.FTSE.COM, EMAIL INFO@FTSE.COM OR CALL YOUR LOCAL FTSE OFFICE:
BOSTON +(1) 888 747 3873 FRANKFURT +49 69 156 85144 HONG KONG +852 2230 5800
LONDON +44 (0)20 7866 1800 MADRID +34 91 411 37 87 NEW YORK +(1) 888 747 3873
PARIS +33 (0)1 53 76 82 88 SAN FRANCISCO +(1) 888 747 3873 TOKYO +81 3 3581 2811

